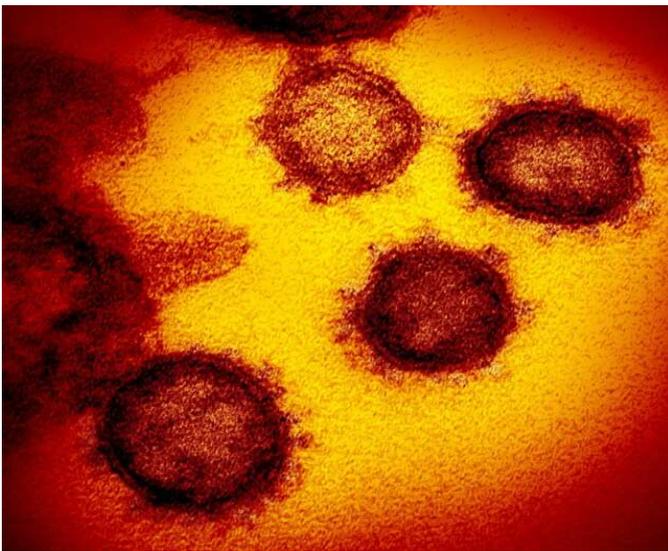


## 最新の変異株、ぜひお読みください

日本でもミュー株が初確認 新型コロナウイルスの変異株、アルファからの 12 種類一覧

2021/9/3(金) 6:30 配信



電子顕微鏡で見た新型コロナウイルス＝米国

立アレルギー・感染症研究所提供

新型コロナウイルスの変異株「ミュー ( $\mu$ ) 株」が国内でも初めて確認された。世界保健機関 (WHO) の「注目すべき変異株」に分類されており、警戒が必要だ。

WHO は警戒レベルの程度によって変異株を二つに分類している。感染力が強まったり、ワクチンの効果を弱めたりするなどの

「懸念される変異株 (VOC=Variants of Concern)」と、複数の国や地域でクラスターが発生するなど拡大しているものを

「注目すべき変異株 (VOI=Variants of Interest)」としている。

VOCの方がより警戒度合いが高い。WHO がミュー株を VOI に指定したのは 8 月 30 日。元々は今年 1 月、コロンビアで見つかった。日本では 6 月にアラブ首長国連邦から、7 月にイギリスからそれぞれ入国した女性 2 人から検出(いずれも無症状)されたと、厚生労働省が 9 月 1 日に発表した。WHO は変異株の呼び名について、2021 年 5 月末からギリシャ文字を使うようになっている。最初に見つかった国や地域の名前が使われることで偏見や差別が生まれる懸念があるとの理由からだ。

WHO や厚生労働省の発表をもとにまとめた各変異株の情報は以下の通り(2021年9月2日現在)。

【懸念される変異株(VOC)】(名前、最初の検出時期と場所)

アルファ株( $\alpha$ ) 2020年9月 イギリス  
ベータ株( $\beta$ ) 2020年5月 南アフリカ  
ガンマ株( $\gamma$ ) 2020年11月 ブラジル  
デルタ株( $\delta$ ) 2020年10月 インド

【注目すべき変異株(VOI)】

イータ株( $\eta$ ) 2020年12月 北米、欧州の複数の国 日本で18件発見  
イオタ株( $\iota$ ) 2020年11月 アメリカ  
カッパ株( $\kappa$ ) 2020年10月 インド 日本で19件発見  
ラムダ株( $\lambda$ ) 2020年12月 ペルー  
ミュー株( $\mu$ ) 2021年1月 コロンビア 日本で2件発見

【VOIから外れた変異株】 イプシロン株( $\epsilon$ )、ゼータ株( $\zeta$ )、シータ株( $\theta$ )

## 南米由来「ミュー株」、ワクチン効果は7分の1以下…従来株に比べ

2021年9月9日(木)配信読売新聞

南米・コロンビア由来の変異した新型コロナウイルス「ミュー株」は、ワクチンなどでできた抗体が他の変異株よりも効きにくいとする結果を、東京大や東海大などの研究チームがまとめた。

ミュー株は世界保健機関(WHO)が8月、警戒度が2番目に高い変異株に位置づけた。国内では6~7月に空港検疫で2例確認されている。

チームは米ファイザー製ワクチン接種者や従来株に感染経験のある人の血液を使い、様々な変異株に対する抗体の効果を調べた。その結果、ミュー株に対しては、ワクチン接種者の抗体の効果が従来株より7分の1以下に低下した。インド由来のデルタ株や南アフリカ由来のベータ株より効果の低下が大きかったという。

チームの佐藤佳・東大准教授(ウイルス学)は「現在、デルタ株が世界で蔓延しているが、ミュー株に対する監視も重要だ」と話している。

註 ミュー株に対して抗体の効果が従来株より低下しているという報告です。

この報告についてワクチンが効かなくなると考えるの2つの点からまだ早計です。

まずこの報告は実験室レベルの問題であり、人体の全ての反応を示すものではありません。

ワクチンによる予防効果は抗体作成だけではないので、実際の流行発生に際して改めて確認することが必要です。

また感染性についてもまだ不明です。

ワクチンは繰り返し摂取することにより、飛躍的に防御効果が増加することも確かめられています。

勿論、楽観視はできません。

いづれにしても、マスク着用とソーシャルディスタンスの確保、手洗い＋うがいの効果は確実ですのでより一層確実に実施してください。(野見山)

## 新型コロナの「イータ株」、昨年12月以降国内で18件確認 厚労省

2021年9月10日(金)配信朝日新聞

新型コロナウイルスの変異株「イータ株」が昨年12月以降、国内の検疫で18件見つかったことがわかった。厚生労働省が9月3日までの集計として公表した。

イータ株は昨年12月に複数の国で初めて確認され、今年3月に世界保健機関(WHO)が「注目すべき変異株(VOI)」に指定した。警戒度合いはアルファ株やデルタ株などの「懸念される変異株(VOC)」より低い。

日本国内では、国立感染症研究所による分類でVOCやVOIに指定しておらず、8月末までは公表対象になっていなかった。